

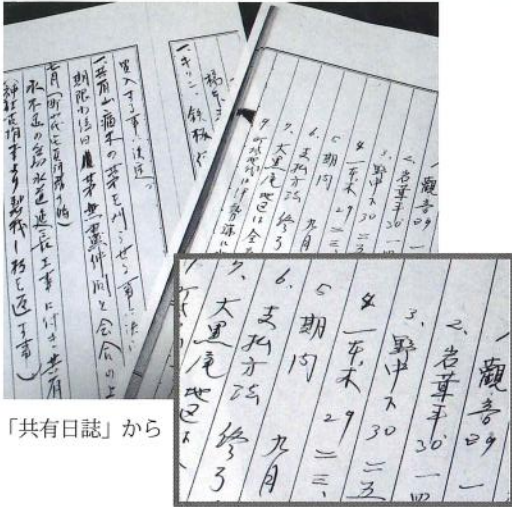
神社の杜（五十五）

「」の山林は何処？ 「共有」の日記から

御岳山一帯の山林は、武蔵御嶽神社社有林、私有林、そして共有林が多くを占め、国や都など公の山林は殆どありません。

共有地や共有林とは、村や地域などでその構成員が共有する森林や植林地をいいます。御岳山の場合は、御師等山上住民が共有の構成員に当たりま

す。共有地や共有林は、広い山林もあれば、家一軒建たない狭い土地までいろいろです。例えば、昨年倒れた滝本の大銀杏が立っていた処や、国の天然記念物になっている神代櫻が立っている土地、山上に二か所ある墓地、そし



「共有日記」から

てこれからお話しする山林、それらを合わせた面積は、なんと約六十八ヘクタール。これは明治神宮（神宮の森を含むため）が七十ヘクタールですから同じくらいの面積を所有していることになりました。今回はその共有の日記に出てくる山林の名前のお話です。

手元にある共有日記は昭和三十年頃から綴られているものです。総会や役員会の議事録的なものですが、折れた神代櫻の枝の入札、山林の下刈りの入札など山林に関係する事柄も多くみられます。そしてその中

今ではあまり聞くことが少なくなつた山林の地名が数多く出てきます。いくつか挙げてみましょう。野中裏・ハンバ下・観音・花水・尾平（オダイロ）・大黒尾（ダイコクノオ）琴沢入・滝本入などなど。

現在であれば御岳山〇〇番地とか御岳二丁目〇〇番地などと現しますが、昔はたぶん字や小字で呼

片柳 茂生

び合っていたのでしょうか。ここまではあれば何とか見当が付きます。しかし先輩たちはさらにややこしい名前を山林に付けたのです。

「芝（死馬）捨 ふむふむ、二本木 岩茸平・瘤木」おや？「学校山・研究会・麻雀山」うむむ。

こうなると何処の事やら皆目見当が付きません。先輩たち曰く、「麻雀山」は、下刈りやら雪起こし（雪で倒れてしまった若木を起こす作業）やらの人足で集まったのに、何故か仕事もせずに麻雀に明け暮れてしまふ山。誰か山に麻雀パイを持って行くのでしょうか？面白い名では

ヨーロッパ山という山林もありました。「此処に植えた木が育つて売れたらみんなでヨーロッパ旅行に行こう」という意味で付けられたようですが、今の材木事情では・・・夢は儚く消えてしまい、常磐ハワイアンセンターにだつて行けそうにありません。

まあまあそれはともかく、先輩の皆さん「二本木・岩茸平・瘤木」この地名何処だか教えて下さい。気になつてしょうがないのです。

あとがき

新型コロナウイルスが世界を駆け巡り、日本だけでなく世界は一変してしまいました。御岳山でも自粛の中、昔に戻ったかの様な静かな山里には、鹿や猪が隣人かのように頻りに訪れていました。夏を迎えると参拝者は徐々に増え、参拝を済ませると、皆人様にさわやかな顔で帰っていきました。今後規制も弱まり生活も戻っていくでしょう。新生活様式の中、まずはこのウイルスに対抗する手立

てが一日でも早く確立する事を期待しつつ、御嶽大神に世界と日本の平和、皆様

令和二年 十月一日発行  
〔年二回発行・非売品〕  
編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四二八（七八）八五〇〇  
FAX 〇四二八（七八）九七四一  
http://www.mushshimakeinjap/  
印刷 楸成和印刷

【P3「幕末のコレラ流行と御嶽山御師」参考文獻】  
酒井シヅ『病が語る日本史』（講談社、平成十四年）  
高橋敏『幕末狂乱 コレラがやって来た！』（朝日新聞社、平成十七年）  
『武州御嶽山文書 第三巻』  
（法政大学・青梅市教育委員会、平成二十二年）